

2019.03.22

高山市 総合教育会議

**国際観光都市「高山市」の将来を支える
子どもの英語力の育成と
自立的コミュニケーションの姿を目指して**

高山市小学校英語総合カリキュラム・マネージャー
中部学院大学 教育学部
准教授 新井 謙司
arai-kenji@chubu-gu.ac.jp

1

1

高山市教育大綱にある重点項目

- ⑪ グローバル化や情報化など**新しい時代**
に対応できる子どもたちを育てること
- ⑬ 保幼小中の連携に加え、高校や**大学と**
の連携を深めること

2

2

H29より

**英語との豊かな出会い
英語おもしろい！**

総合カリキュラム・
マネージャー

**小学校英語
教育の充実**

ALT13名の
配置と活用

電子黒板の
配置

中部学院大学
との連携

3

3

これから話す内容

- 1 高山市の小学校英語教育の現状
- 2 **総合カリキュラム・マネージャー**の取組
- 3 **電子黒板**の活用状況
- 4 中部学院大学との**連携**
 - 活動内容・支援内容・教育フォーラム
 - 意識調査 H30年度
 - 英検ジュニア学校版・授業分析
- 5 成果と課題・今後に向けて

4

4

1 高山市の小学校英語教育の現状

平成32年度から新学習指導要領完全実施

(全国) 3・4年生は年間35時間
5・6年生は年間70時間 授業数

(高山市) 平成30年度より先行実施

(全国) 3・4年生は外国語活動
5・6年生は外国語 指導内容

(高山市) 平成31年度より先行実施

先駆けて進む小学校英語教育

5

1 高山市の小学校英語教育の現状

各小学校においては…

- 主として担任がALTと協力しながら授業を行う。学校によっては、英語の免許をもつ教員や中学校との兼務教員が行う。
※本郷小ビデオ(2分程度)



6

1 高山市の小学校英語教育の現状

各小学校においては…

- 今年度、国より配付された新教材を用いた授業
- 附属のデジタル教材を電子黒板で積極的に活用
- 授業研究、電子黒板の活用方法について校内研修を実施

7

1 高山市の小学校英語教育の現状

各小学校においては…

- 岩滝小学校(複式学級)にて、今年度より15分短時間学習を週3回位置づけ実施。その他の小学校では、1時間純増または、週時程等を見直し、時間を生み出す。

8

1 高山市の小学校英語教育の現状

高山市教育委員会においては…

全国的にも充実

- 📍 小学校英語総合カリキュラム・マネージャー(2名)
3年間設置 ・ 「10の活動」の企画・推進
- 📍 H30年度より中部学院大学との「授業づくり連携協力校」
の設置 (東小・西小・花里小・本郷小)
- 📍 外国語指導助手 (ALT) 13人の配置計画を見直し
(概ね、全小学校全学級全時間ALTが授業に入ることが
できるよう配慮)
- 📍 全小学校に電子黒板(各校1台)を設置

9

2 総合カリキュラム・マネージャーの取組

* [カリマネによる「10の活動」の内容](#)

- ☑ 授業支援、推進体制整備のため全小学校(19校)・全中学校(12校)での英語授業計画訪問、
要請訪問を実施
- ☑ H30~H31 (2年間のべ)
- ☑ 158回/19小学校 ・ 19回/12中学校
- ☑ 中学校入門期の英語指導支援

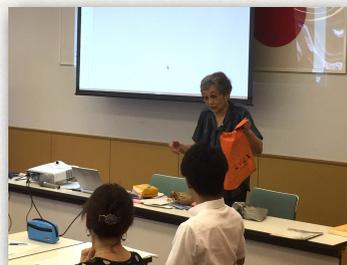
10

2 総合カリキュラム・マネージャーの取組

* [カリマネによる「10の活動」の企画・推進例](#)

- ☑ 要請のあった学校へ出向き、校内研修・
ワークショップの実施

- ☑ 久埜百合(くのゆり)
中部学院大学学事顧問
による模擬授業の
企画・実施



11

2 総合カリキュラム・マネージャーの取組

* [カリマネによる「10の活動」の企画・推進例](#)

- ☑ 小学校英語研修会
指導方法、新教材活用、ICT活用等
2年間全10回実施済
- ☑ クラスルーム・イングリッシュ勉強会
- ☑ ワーキング・グループ勉強会

12

2 総合カリキュラム・マネージャーの取組

* カリマネによる「10の活動」の企画・推進例

- ☑ **カリ・マネ通信の発信** ※添付資料参照
- ☑ 小学校英語相談ボックスの設置
- ☑ 子ども・教師の意識調査「できる度チェック」の実施・分析・実施校への評価フィードバック
- ☑ 英検ジュニア学校版の実施（希望校のみ、4年生～6年生対象）

13

3 電子黒板の活用状況



- ☑ 教材付属のデジタル教材の**積極的な活用**
- ☑ 他の**オンライン教材の活用**
- ☑ **他教科でも使用可能** 学習の充実
- ☑ 久々野小学校 5年生 授業ビデオ

14

4 中部学院大学との連携

- ☑ **授業づくり連携協力校の設置**
(H30：東小・西小・花里小・本郷小)
- ☑ 校内研修・模擬授業の実施
- ☑ 年間2回の意識調査の実施・分析
- ☑ 英検ジュニア学校版の実施・分析(無料)
- ☑ 副教材の無償配布 ※実物提示

15

15

4 中部学院大学との連携

【できる度Check 児童向け】

- 久埜・相田・入江, (2011～2013に研究のために実施した意識調査問題を利用)
- 34項目からなり、子どもが「できている」と思っている度合いを調査するもの
- 全国学力・学習状況調査では測ることができない意識調査項目
- 年間2回実施 (1回目：2017年6月末 2回目：2018年2月末)
- 希望校 (19校中13校) による小4～小6
H30年度 1182名対象 (有効回答数889名)
H31年度 1851名対象

16

16

【できる度Check 児童向け】

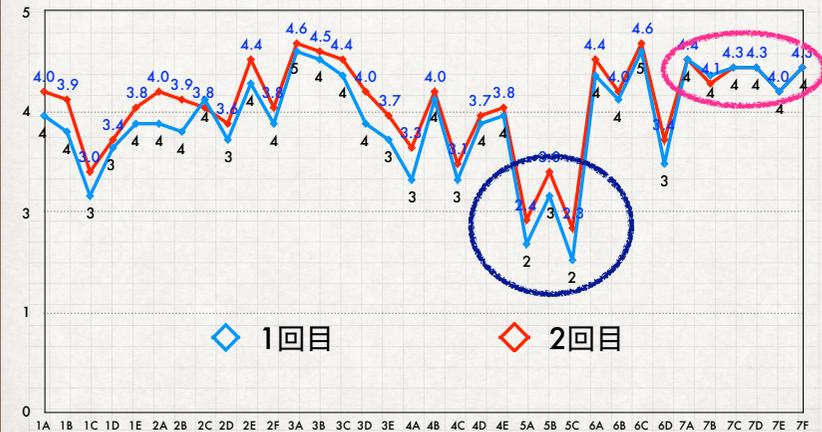
- 1A~1E 聞いてわかる
 - 2A~2F 既習語彙等と言える
 - 3A~3E 決まった表現と言える
 - 4A~4E 自分で考えてと言える
 - 5A~5C 読んでわかる
 - 6A~6D 文字がかける
 - 7A~7F ○○できるようにになりたい
- 「できると思っている度」
- 「したい度」

17

17

調査結果① 【できる度Check 児童向け】

高山市 889名 項目内 1回目と2回目の比較



18

18

4 中部学院大学との連携

【英検Jr.学校版Bronze】

- 久埜百合 H29年度~H31年度 英検助成より
 - 年間1回実施 (2018年2月初旬~中旬・各学校の担任による実施)
 - 高山市内・市外の小学生(4~6年)に実施
- H30年度 885名 H31年度 1517名

希望者 倍増!!

19

19

4 中部学院大学との連携

【英検Jr.学校版Bronzeの結果と

授業分析の比較】

【分析項目】

1. 定型パターン表現(あいさつ等)の時間
2. 歌やチャンツで英語を発している時間
3. 指導者が英語表現のモデリングをしている時間
4. 指導者が英語で子どもたちとやり取りしている時間 Q & Aを含む
5. クラス全体でパターン練習、リピートをさせている時間
6. 子ども同士でペア、グループ活動をしている時間
7. 文字を読ませたり、文字を使って指導している時間
8. 評価、活動の準備、課題提示等 日本語での説明の時間

20

20

調査結果 ③

【英検Jr.学校版Bronzeの結果と授業分析】

学級	英検平均	1 挨拶パ ターン	2 歌チャ ンツ	3 モデル	4 やり取 り	5 リピー ト等	6 ペア等	7 文字	8 日本語 指示	指導者	累計時 間数
A	79.4	2.52	28.3	4.4	3.8	2.2	28.9	0.0	29.8	A L T / HRT/JTE	75
B	80.0	4.44	4.4	4.4	10.5	20.7	7.4	0.0	48.1	ALT/HRT	75
C	80.2	5.26	5.4	4.6	17.4	16.6	6.7	0.0	44.1	ALT/HRT	75
D	80.5	11.1	11.1	5.1	7.0	11.1	22.2	2.2	30.1	A L T / HRT/JTE	139
E	81.7	5.5	0.3	12.0	5.9	14.3	23.2	0.0	38.9	ALT/JTE	61
F	82.3	6.7	1.0	3.3	0.0	6.7	13.3	0.0	60.0	ALT/HRT	125
G	83.4	1.6	0.0	14.6	12.8	46.3	6.7	0.0	17.9	ALT/HRT	160
H	91.7	3.4	0.0	3.3	44.0	0.0	22.2	13.1	13.9	ALT/JTE	139

21

21

5 成果と課題・今後に向けて

【成果】

- ☑ 学級担任が授業を進行するという考え方は浸透している
- ☑ 担任とALTの利点を活かした協働指導ができてきている
- ☑ e黒板とデジタル教材は授業でほぼ毎時間活用されているため、豊かな「やり取り」がなされている

22

22

5 成果と課題・今後に向けて

【成果】

- ☑ 研修に参加される教師の指導力が高まっている
- ☑ ALTと担任の事前打ち合わせの時間確保、推進体制が整いつつある
- ☑ 英語教育推進教師が校内で機能するようになってきている（校内研修の実施、授業改善の提案等）

23

23

5 成果と課題・今後に向けて

【課題】

- 子どもとの豊かな「やり取り」をするために、教員の英語力・表現力の向上
- 児童の発達段階と言葉の獲得に係る専門的な知識や技能について理解を深める研修の充実が必要
- 自然な本物の英語を聞かせるのはALTであるため、ALTの指導力の向上が必要

24

24

5 成果と課題・今後に向けて

【課題】

- 英検Jr.学校版の助成金が残り1年 継続的な分析が困難
- 研修に関わる外部講師報償費の確保
- 全小学校に英語免許所有教員の配置

25

25

5 成果と課題・今後に向けて

- 中部学院大学との「授業づくり連携協力校」の取組の継続と検証
- 継続的なICT環境の整備 各教室に!!
- 英検ジュニア学校版(小学生)・英検IBA(中学生)の継続的な実施による実態把握と分析
- 人材育成(夢) 教員の海外派遣研修

26

26

ご清聴ありがとうございました。

高山市小学校英語総合カリキュラム・マネージャー
中部学院大学 教育学部
准教授 新井 謙司
arai-kenji@chubu-gu.ac.jp

27

27